

1.1

1994年(平成6年)

広報

まつど

人口と世帯 (12月1日現在)

- 人口 464,109人 (+401)
- 男 236,154人 (+193)
- 女 227,955人 (+208)
- 世帯 171,788世帯 (+338)

☎ No822 ●発行/松戸市 ●編集/広聴部広報課 〒271 松戸市根本387-5

市役所は3日(月)まで休みます
緊急のご用は

66-1111



宝船 (松戸折り紙サークルの島村芳子さん・近藤やへさん・鏡雅子さんの共同作品)

市議会議員

石井 正 治



新年、明けましておめでとうございます。平成6年の年頭に当たり、市議会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

松戸市は昨年、市制施行五十周年の輝かしい節目の年を迎えたところであります。この半世紀という歴史を歩んだ本市に、文化会館「森のホール21」をはじめ、福祉医療センター1、中央保健センターなどのオープンを迎え、文化あるいは福祉・医療の向上に大きな羽ばたきをみられたことは、誠に慶びにたえない次第であります。

現在本市は人口四十六万余名の中核都市となり、ますます発展しておりますが、社会の国際化、高度情報化、高齢化等さまざまな変貌をみる中、引き続き地域福祉の一層の発展、豊かな心を育む潤いのある市民生活の向上を図るため、二十一世紀を展望した新たな都市づくりに邁進していかねばなりません。しかしながら一方、地方自治体の行財政の現状は、極めて厳しい状況にあり、また行政需要も著しく増大し、あらゆる分野で市民生活に直結した課題が山積しております。こうした状況の中、市議会の役割はますます重大になってきております。

私も市議会議員一同、その使命の重大さを十分認識し、奮闘努力してまいりますので、何とぞ相変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

市 長

宮 間 満 寿 雄



年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、日ごろより市政に対しご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私は市長に就任以来、二十一世紀を展望した松戸市長長期構想に描かれた理想の都市像を実現するため、年次計画の積み重ねにより、計画的な街づくりを推進してまいりました。お陰さまで、四次にわたる五か年計画もほぼ予定通りの成果をあげ、長期構想最大のプロジェクトである「二十一世紀の森と広場」を中心とした文化シンボルゾーンに、文化会館「森のホール21」など、各種文化施設を開設するまでに至っております。

本年4月からは、四十六万市民の皆様との夢と希望を盛り込み、社会経済情勢の変化等本市を取り巻く諸情勢を十分考慮した、第五次総合五か年計画がスタートいたします。

私は、これからも計画行政を積極的に進め、この新「総合五か年計画」を達成するために、今後とも渾身の努力を続けようとの決意を新たにしておりますので、どうぞ、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

旧水戸街道を歩く

何気なく通っている道にも歴史があります。市内を通っている水戸街道は、江戸時代、日本橋から水戸へ通じる道として整備され、徳川御三家の一つ水戸藩をはじめとして多くの大名が頻りに往來しました。

交通量の多い現在では、当時の様子を思い浮かべることは難しいかもしれませんが、当時は現在とはだいぶ違った経路を通っていました。その中には、今でも当時の名残をとどめている所もあります。そこで市内にお住まいの佐藤ちゆきさんに旧水戸街道を歩いていただきました。



松籠寺参道

下総の要衝・松戸宿

松戸郵便局（春雨橋周辺）

船で渡った水戸街道

松戸郵便局裏の江戸川の堤防に立ち対岸を眺めると、河川敷にゴルフの練習場が見えます。江戸時代、その辺りには金町松戸関所がありました。旧水戸街道を通って江戸に入ります。ここを通らなくてはなりません。

関所は、通行手形の無い者は通ることを許されず、「入り鉄砲に出女」を厳しく監視して、関所破りは獄門の刑とされていました。松戸と金町の間をつなぐものは、松戸宿の船頭が操る二艘（せうご）の船でした。旅人たちは渡し場から船に乗って、江戸川を渡ります。参勤交代で大名が渡る時には、周辺の十力村から助け船が用意されたといわれています。享保十年（一七二五年）、八代将軍徳川吉宗が小金原で鹿（しし）狩りをしたときには、川に船を何艘も浮かべ、仮設の橋（船橋）を造り、その上を馬に乗ったまま渡りました。今、その渡し場は江戸川の堤防の下に埋まってしまい、当時を徳（し）のげせるものは残っていないので、渡し場があったことは、あまり知られていないようです。

昔の旅人はこの地に立って、どんな思いを抱いたのでしょうか。江戸に入る者は、「いよいよ関所だ」と心を引き締め、また江戸を離れた者は、無事関所を通りホッとしたのでしょうか。市内の旧水戸街道は、この渡し場跡から始まります。

松戸宿の繁栄

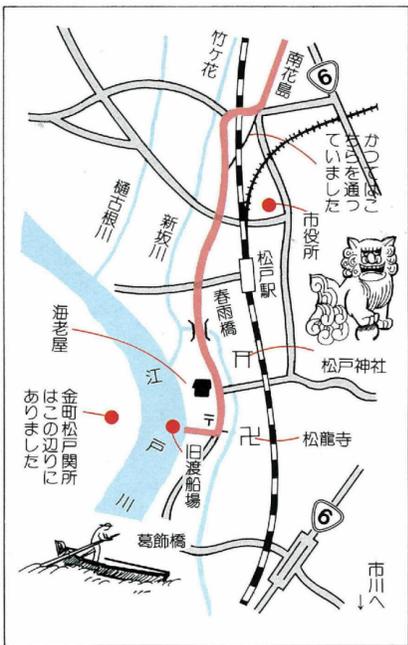
江戸川堤防から、目の前のゆるやかな坂を下り、左へと流れ行けば、江戸日本橋から数えて千住、新宿（にいじゅく）に次いで三番目、距離にして五里三十三町（約二十四キロ）の松戸宿です。松戸宿は水戸街道の宿駅として、また物資輸送の中継河岸として栄えました。旅人や荷駄の往来も盛んで、近郷から出稼ぎに来る者も多く、市が立ち、家々が軒を並べ



金町関所と松戸宿に架けられた船橋を荷軍が渡り構城する様子を描いたもの（船橋市西図書館蔵）



将軍のお鹿狩り絵巻（船橋市西図書館蔵）



旧渡し場から対岸を望む



高木筑後守の五輪塔墓



松戸宿本陣跡

ていたといえます。商店も多く、松戸市史によると七十業種、軒数にして三百二十軒あり、中でも、荒物・小間物関係、飲食店、旅館屋・木賃宿などが多く、にぎわいをみせていたようです。また、水戸街道の中では、旅宿飛脚・伝馬などを管理する道中奉行の支配を受けた数少ない宿町のひとつ、非常に重要視されていました。

街道を行くと、すぐに松籠寺の参道が見えてきます。石畳の参道を歩いていくと、山門前左側には六地藏が立ち、右側には松戸宿の代々の本陣を務めた伊藤家の墓地があります。山門をくると正面に本堂があります。本堂の裏には、嘉永二年（一八四九年）十二代将軍徳川家慶（いையよし）が、小金牧（現在の五香から松飛台）で鹿狩りをした際、むためこの寺に立ち寄り、手植えしたと伝えられる松がありますが、今はもう枯れてしまいました。当時の松籠寺は松戸宿の寺院の中では最も広く、戸定が丘の方まで広がっていたといいますが、明治に入り、常磐線の前身である日本鉄道海浜線が寺域を通ってからは狭くなってしまいました。本堂左手墓地の奥の線路わきには、松戸宿最初の旗本領主・高木筑後守正次の五輪塔墓が今も残っています。

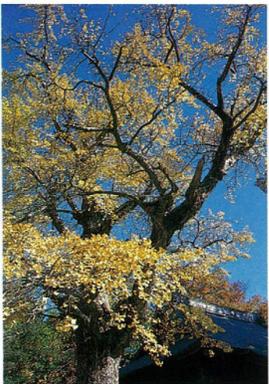
本陣と海老屋

再び旧水戸街道に戻ると、すぐ左に松戸郵便局があります。郵便局の裏が松戸宿の本陣があった所です。本陣とは、宿駅で参勤交代の大名や公用の旅行者が泊まるよう指定された宿のごとく、名主の屋敷などに置かれていたことが多かったようです。松戸宿の本陣は明治二年の火災で焼失してしまいましたが、再建されて

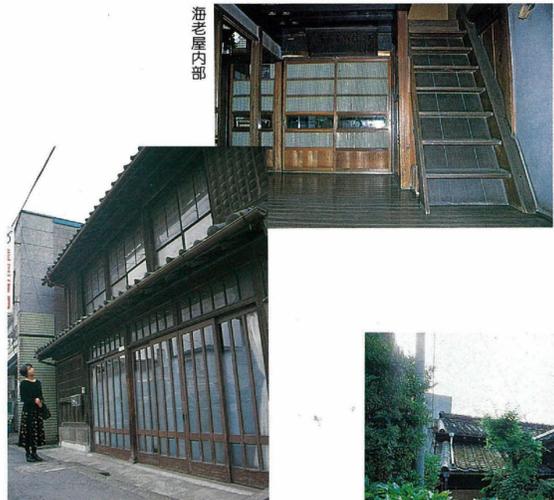
光圀伝説の残るイチヨウ

海老屋を過ぎてすぐ前の交差点を渡ると、右側に松戸神社の駒犬が見えます。参道を進み、坂川にかかる橋を渡ったすぐ左側のイチヨウの木は、徳川光圀にまつわる話が伝わっています。

「その昔、この辺りに鷹狩りをしたとき、木立に珍しい白鳥が止まっています。鷹に捕らせようとしたが、すくんでしまつて動けなくなりました。光圀が自ら弓を引き鳥を射落とさず、手がかしひれてしまいました。光圀は怒って神殿の扉に矢を向けたところ、矢は折れてしまい、さすがの光圀も驚いて神にその非礼を詫言し、矢を奉納し、その後水戸家は松戸神社を厚く崇敬した」というものです。本陣付近から春雨橋通りまでが松戸宿の中心であったように、今も昔の町並みがところどころに見られ、古い寺院も残っています。



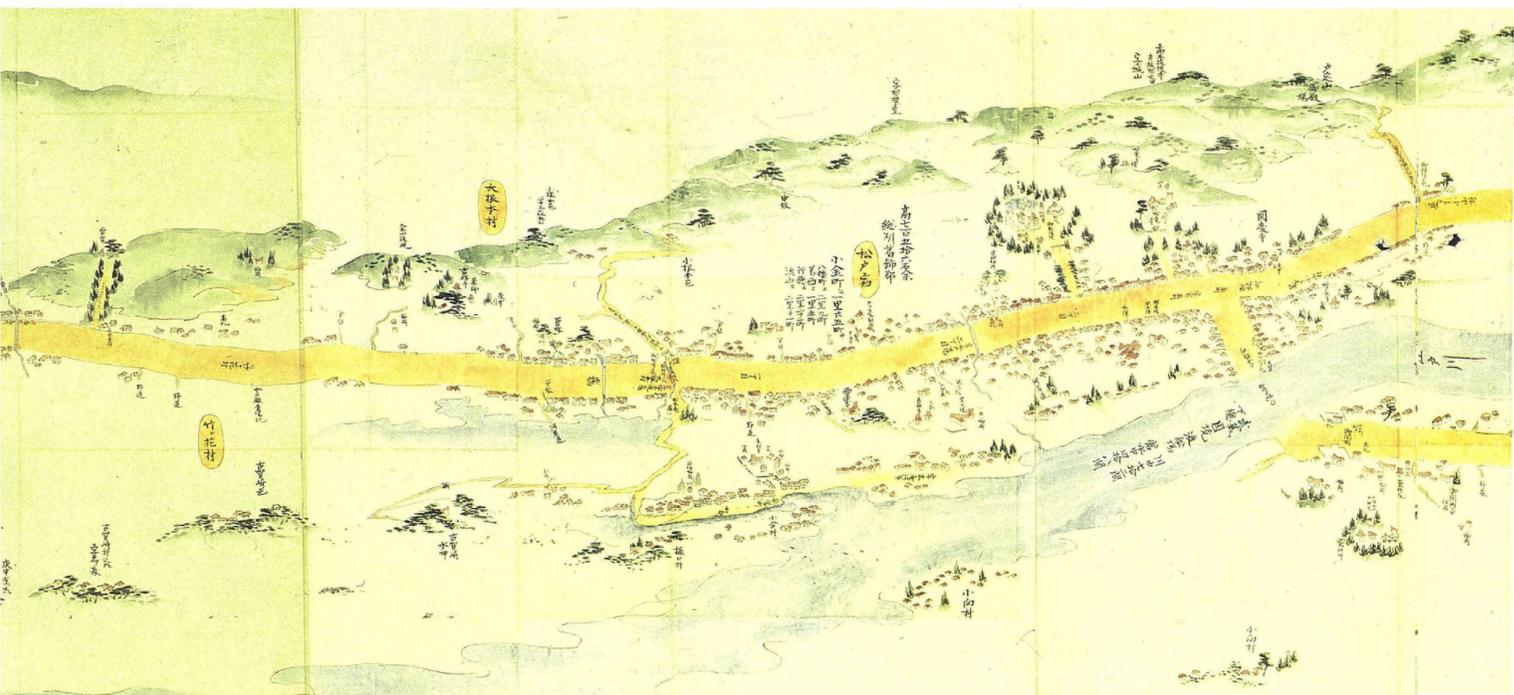
松戸神社のイチヨウ



海老屋内部



海老屋



旧水戸街道を歩く



二ツ木の旧水戸街道、この先がすぐ小金宿



旧水戸街道道標



万満寺



THE SHINJYU

これは二人が紅葉狩りをした時に詠み交わしたものです。一茶は句の中で立砂を「爺」と呼び、自らを「子」としています。二人が親子のように親しい関係であったことが読み取れます。

立砂は没後、万満寺に埋葬されました（立砂の墓は戦前に無縁となりましたが、現在は万満寺の大川家の分家の墓に祀られています。悲しんだ一茶は度々かこへ墓参りに訪れたといわれます。

その後は息子の斗圍（とゆゑ）が、家業とともに俳業を継承しました。斗圍も一茶への支援を続け、それに対して一茶は感謝を込めて近況を伝え、自作の句を示し、斗圍の句に添削を加えるなど、変わらぬ親交を保ち続けたといわれます。

現在、大川立砂の直系の子孫は絶えてしまいました。分家に当たる大川八重子さんの宅に斗圍の肖像画が伝わっています。

万満寺と旧水戸街道道標

さらに直進していくと、万満寺が見えてきます。万満寺は、鎌倉時代に千葉介頼胤（ちのすけ・よりたね）により創建され、多くの文化財を有する名刹（せき）です。仁王門には国の重要文化財に指定されている金剛力士像があります。毎年三月と十月に行われる仁王の股くくりは、江戸時代から痕跡（あと）を除けとして有名で、祭礼には多くの人々が訪れます。また、万満寺は江戸出陣帳を行った寺院でもあります。江戸出陣帳とは、江戸町民が遠路はるばる馬橋まで参拝に来る代わりに、お寺の方で江戸の寺院に出掛け、仏様を公開し、広く御利益を得てもらう行事です。

旧水戸街道は、万満寺の前で「く」の字に曲がります。ここからしばらくゆる



一里塚跡

馬橋周辺は、道中を行く旅人が一息つく「間の宿」として栄えました。間の宿とは公定の宿場ではなく、宿場と宿場の間にある宿泊施設のある集落のことです。旧水戸街道は一里塚から直進して、千葉一族の守護神を祀った蘇羽鷹（そはたか）神社を左に見ながら右へ分かれ、車の少ない脇道へと流れっていきます。そして、ゆるやかなカーブをいくつか過ぎ、坂を登れば小金宿です。



江戸見坂

やかな坂が続きますが、昔はこの坂から江戸や富士山が見えたことから江戸見坂、富士見坂と呼んでいたといわれます。坂を登り終え、再び国道六号線の交差点に出ると、正面に石柱（道標）が見えます。道標を見ると、碑文から文化三年（一八〇六年）に建てられたことがわかります。「左水戸街道、右印西道」と刻まれている、旅人のために印西街道との分岐点を示すものでした。

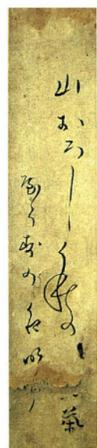
疾走する車を横に見ながら、さらに五十ほど歩くと、今度は一里塚跡と記された標が建っています。ここには、水戸街道の里程を示す塚が置かれていました。一里塚は一里（約四km）ごとに置かれ、人夫や馬子が里程を知って駄賃を定めたり、旅人がどのくらい歩き、どの土地まで何里あるのか知るために役立っていました。



大川立砂旧宅跡



大川斗圍肖像画（大川八重子氏所蔵）



馬橋に残る一茶の短冊（恩田威明氏所蔵）



竹ヶ花跨線橋



龍善寺下の首切地蔵

国道六号線に合流

春雨橋を過ぎた旧水戸街道は、ここからしばらく商店の並ぶ道を直進します。竹ヶ花の跨（こ）線橋を渡り、交差点を左に曲がります。旧水戸街道は、常磐線によって分断されているのです。

道はやがて国道六号線と出合います。ここからしばらくは国道六号線と同じルート。激しい車の量を目を奪われ、旧水戸街道と重ね合わせることに戸惑いを覚えながら、歩いていきます。北松戸駅前を過ぎた先の龍善寺下には、首切地蔵があります。幕末の佐幕派の志士佐藤久太郎（水戸藩士）の処刑地。その霊を祀（まつ）ったものだろう。中根を過ぎ、長津橋立体を横目にすれば、そこはもう馬橋。ここで旧水戸街道は国道六号線と別れて、長津橋立体的な小道に入ります。すく先には、この辺りの地名のもとになった馬橋があります。

その昔、ここにかがられていた橋は、大雨が降るたびに流されてしまい、多くの旅人を困らせた。そこで万満寺と縁のあった良観上人が馬の鞍の形をした橋をかけさせたところ、橋は流されなくなりました。

馬橋に来た小林一茶

馬橋から二百五十ほど歩いたところの右手に、松戸信用金庫があります。この付近には馬橋の油商で、松戸地方の俳壇の中心的存在であった大川立砂（りゅうさ）の屋敷がありました。現在は、大川立砂旧宅跡と記された標が建っているだけです。

立砂は俳人・小林一茶とも親しい関係にありました。一茶は江戸から水戸街道を通ってしばしば馬橋の立砂の家に足を運んでいます。なぜ一茶は何度もここを訪れたのでしょうか。

一茶にとって旅は心の糧であり、創作活動の意欲をかきたてる源でした。そのため一茶は全国を旅しましたが、生活が困難すると援助を求めて支援者や門弟の多い東葛地方を訪れたのです。そのため一茶の句の中には葛飾の地を詠んだものも多く、常盤平の子和清水には一茶の句碑が建てられています。

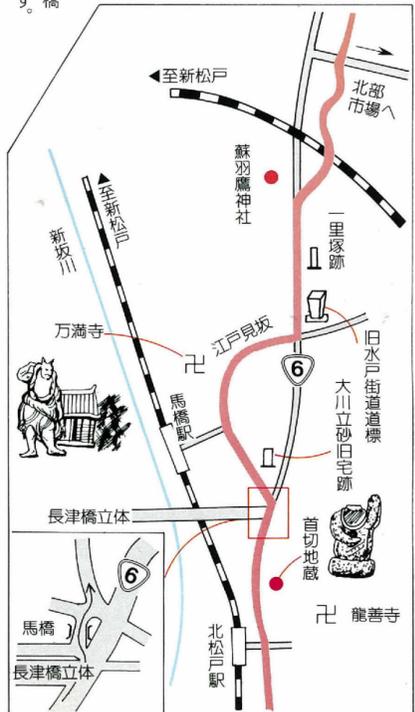
立砂は一茶のよき理解者の一人で、最もつきあいが親密でした。二人の関係を表すこんな句が残っています。

夕暮れの 頭巾へ拾う 紅葉かな
立砂

紅葉はや 爺はへし折り 子はひろう
一茶

旅人たちが一息つくる間の宿として栄えた・馬橋

根本く馬橋・八ヶ崎周辺



旧水戸街道を歩く

国道六号線根木内交差点
旧水戸街道はここを直進して柏へ



八坂神社の二本の道標



東漸寺



本堂前にある竹内兄弟の墓碑
(左・兄藤之助、右・弟哲次郎)



玉屋



江戸時代初期の虚無僧 (市立博物館所蔵)



小金宿に今も残る井戸



野馬捕りの献額 (福昌寺所蔵)

水戸藩専用の本陣が置かれた町・小金宿

小金く根木内周辺

今も旧道の名残をとどめる

小金宿は松戸宿と比べると規模は小さかったのですが、歴史は古く水戸藩専用の本陣や小金牧を管理した野馬奉行・綿貫氏の屋敷などが置かれにぎわいを見せていました。

小金牧は東葛地方にまたがる広大な原野で、千頭もの野馬が生息していました。特に小金牧の野馬は力が強く、寒暑や粗食に耐えることから、農耕馬として重宝されました。野馬の数などを調べる「野馬捕り」は大がかりに行われ、多くの者が動員されたといえます。

小金宿に入ると、道沿いに古くから伝わる井戸があります。この井戸は、小金宿が一度大火に見舞われた教訓から、人々が火災を防ぐため、道端に設けたものといわれています。

旧道を歩いていくと、左に一月寺が見えます(現在の一月寺は、かつての一月寺とは別のお寺です)。一月寺は、江戸時代には虚無僧寺で知られた有名なお寺でした。小金町誌にはこんな話が残っています。「一月寺には二本のケヤキの木がありました。この木が街道に突き出していたため、水戸藩の大名行列の時にしやまになりました。そこで木を切らせようとしたところ、寺僧に『水戸殿の槍(やり)は曲がらぬか』と反問され、その後水戸藩は久保平賀の道を通るようになった」というものです。

一月寺の先には木造りて昔風の格子戸助・弟哲次郎)は天狗党に身を投じました。結局、天狗党は幕府の追討軍に破れ、竹内兄弟も幕末の混乱の中で戦死しました。東漸寺には明治四十五年(1872)に建立された洪沢栄一が揮毫(きごう)した竹内兄弟の墓碑があります。

三本の道標

旧水戸街道は北小金駅前の交差点で、右に直角に曲がります。この交差点にはかつて三本の道標が立っていました。その中の一本は、「本土寺道」と刻まれていました。ここから約四百五十メートルにわたって、アジサイ寺で知られる本土寺の参道が続いていました。参道は常盤線により分断されています。参道並木の松や杉は、徳川光圀が寄進したものです。境内には光圀が建立した秋山夫人(光圀の伯父武田信吉の生母)の墓や日暮玄蕃一族の墓などがあり、小金周辺と水戸家との密接な関係がうかがうことができます。現在、道標は駅前再開発事業のため、一時保管されています。

交差点の右前方には昭和四十八年まで八坂神社がありました。残る二本の道標はここに建てられました。左側のもとは、「右水戸道中、左なかれ山」と、右側のもとは、「右水戸海道」「明和五年」「大井氏建」と刻まれていました。「明和五年(1768)」に大井氏が「これ」を建てた」と読めます。二本の道標は、現在も移転した八坂神社の境内で見ることが出来ます。石の状態や字體から、右側にあった方が古いと思われる。この後、旧水戸街道はゆるやかな坂道を下りながらイチヨウ並木を抜け、根木内の交差点で国道六号線を横切り、柏へと向かって行きます。そして、東葛飾の台地を経て常総への道をたどっていくのです。

の家があり、当時のたたずまいを見せる風景に出合えます。江戸時代から続く家で、玉屋という旅館屋でした。

水戸藩の本陣と東漸寺

玉屋から約五百五十歩歩き、最初の信号を過ぎたすぐ左には、かつて水戸藩専用の本陣が置かれ、高城氏の家臣日暮玄蕃の一族が代々経営にあたりました。別名小金御殿とも呼ばれたこの屋敷は、水戸藩の藩主などが江戸への往來の途中や鷹狩りに来た時に利用しました。水戸藩がこの地に専用の本陣を構えたのは、江戸と小金との距離(七里二十四町、約三十七キロ)がちょうど一日の行程であったことや、近くに御鷹場夜所(鷹匠の育成や飼育管理、鷹狩りの準備をする所があったため)といわれています。

次の信号近くの酒屋を右に入った所には、小金宿の本陣がありました。本陣は大塚氏が代々経営にあたり、屋号を井筒屋といいました。現在は、本陣跡と記した標が立っています。

小金宿の中心にある東漸寺は、徳川家康が定めた関東十八壇林宗門の学問所の一つで、江戸中からも多くの人が参拝に訪れました。幕末、小金宿にも緊張がもたらされた時がありました。尊皇攘夷派の数千の水戸藩士たち(天狗党)が、水戸藩の本陣近くに陣を構え、江戸の動きを牽制したため、小金宿の人々は騒然としました。そうした中、小金出身の竹内兄弟(兄藤之助、弟哲次郎)は天狗党に身を投じました。



徳川光圀が寄進した本土寺参道の並木

旧水戸街道は江戸から水戸まで距離にして二十九里三十一町、約百十七キロに及びます。その間には二十の宿町がありましたが、通常は二泊三日の旅であったといえます。

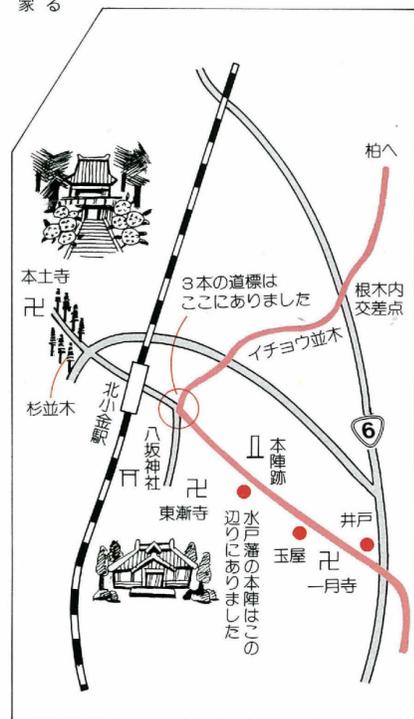
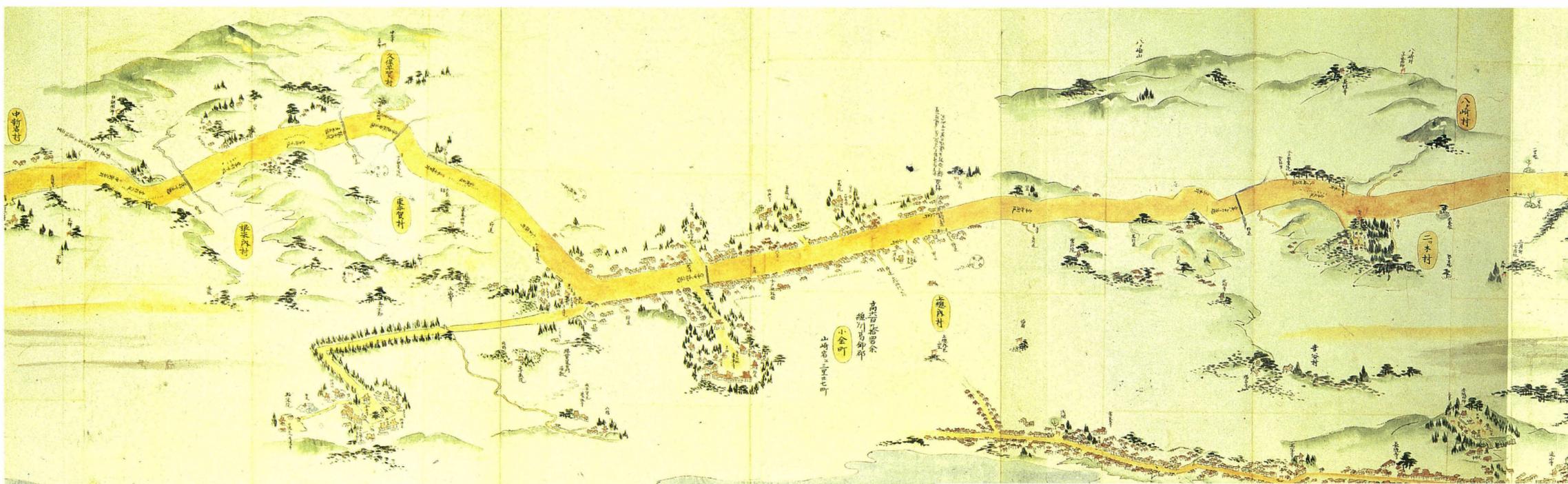
旅人たちはどんな思いでこの街道を歩いていたのでしょうか。彼らが歩いた道をたどり、わずかに残る歴史的遺産に触れてみると、当時の様子を思い描くことができます。旧水戸街道はそんな思いを抱かせ、都会にはなかりつつある昔の面影を残す道なのです。

※下の絵図は郵政省郵政研究所附属資料館所蔵の「分間延絵図」です。



三ヶ月 佐藤 ちゆきさん

今回旧水戸街道を歩いてみて、市内に住んでいながら、意外と知らないことが多くあり、身近な所に歴史の跡があるのに驚きました。皆さんも一度歩いてみてはいかがでしょうか。市内には、史跡などを巡るコースもあるといふことなので、今度は少し勉強してから友達を誘って歩いてみようと思います。



市民会館

期日	内容	開演時間
1/8(土)	第一生命労働組合柏支那チャリティーイベント	13:30
22(土)	松戸地区高等学校音楽会	13:00
23(日)	小金高校OBニューイヤーコンサート	15:00
30(日)	東京パレ劇場附属松戸パレ研究所発表会	17:00

※月曜日は休館
 市民会館 ☎68-1237~9番

市民劇場

期日	内容	開演時間
1/5(水)	アニメまんが映画会 ☆	10:00 12:00 14:00
7(金)	ボスコ・スターノクラシックコンサート ☆	18:30
8(土)	熊坂良雄・牧子ジョイントリサイタル ☆	18:00
9(日)	ピアノ・音楽試演会	10:00
11(火)	コンサート(流通経済大学)	11:00
15(土)	国立音楽大学同調会コンサート	13:00
16(日)	ピアノ・エレクトーン発表会	10:00
21(金)	万葉集講座 クラシックコンサート	10:00 16:00
22(土)	ピアノ発表会	15:30
23(日)	新春落語鑑賞会 ☆	14:00
30(日)	ジャズコンサート	14:00
2/5(土)	ピアノ・エレクトーン発表会	15:00

※月曜日は休館。☆印のついている催し物は有料です。
 開演時間は、変わることがあります。
 市民劇場 ☎68-0070番

文化ホール

期日	内容
1/7(金)~16(日)	松戸市美術会展
11(火)~16(日)	中国文化展
19(金)~23(日)	松戸市小中学校造形作品展
26(火)~29(土)	県立馬橋高等学校美術・工芸・書道展
26(火)~30(日)	松戸市小中学校書画初展
2/1(火)~6(日)	明るい選挙学習作品展

※月曜日は休館 開館時間…午前10時~午後6時
 文化ホール ☎67-7810番

松戸駅市民ギャラリー

期間	1/7(金)まで	8(土)~21(日)	22(土)~2/4(日)
東	松戸市美術展 入賞作品展	押し花カトレアの会 アートフラワー教室 合同作品展	松戸ポタニカルアート 作品展(植物画)
西		自然との出会いの会 写真展	墨松会馬橋教室水墨画 展

☎社会教育課成人教育係 ☎66-7462番

おはなしキャラバン

期日	会場	対象	時間	形態
1/13(水)	図書館本館	3歳~9歳未満	午後3時~4時	おはなし会
14(木)	新松戸市民センター			キャラバン
20(水)	小金原市民センター			おはなし会
27(水)	常盤平市民センター			
2/3(水)	新松戸市民センター			
4(金)	図書館本館			

費用…無料 ※1/13と2/4は午後3時と4時からの2回公演
 どんわおはなしキャラバン ☎63-9999番
 市立図書館 ☎65-5115番

戸定歴史館

期間	内容
1/30(日)まで	写真に見る戸定邸の明治・大正・昭和
1/31(月)~2/5(土)	展示替えのため休館

入館時間…午前9時30分~午後4時30分(月曜日は休館)。年始は1/5(水)から
 入館料…大人60円・高大学生40円・小中学生20円
 戸定歴史館 ☎62-2050番

博物館

期間	内容
1/5(水)~30(日)	ハイビジョン映像「中国青銅器の世界」(観覧無料) ※2/1(火)からは「韓国国宝の旅/幻の青・心の白」(44分間)を上映予定
1/16(日) 午後1時30分~3時	学芸員定期講演会「国府台の合戦-松戸をめぐる二つの戦いについて」 定員…当日先着80人
2/1(火)~3/15(火)	東葛地区新出土品展(期間中に「東葛地区遺跡発表会」を開催します(期日未定)) 観覧料…一般100円・高大学生50円・小中学生30円(常設展とは別料金)

※月曜日(祝日に当たるときは翌日)・第4金曜日は休館。年始は1/5(水)から
 入館時間…午前9時30分~午後4時30分
 観覧料…一般300円・高大学生150円・小中学生100円
 市立博物館 ☎84-8181番



平成6年
松戸市成人式
 会場は森のホール21



期日…1月15日(成人の日)
 会場…森のホール21(文化会館)
 対象…昭和48年4月2日~49年4月1日に生まれ、市内に住民票のある人
 内容…式典と記念講演会
 ※会場は駐車場が狭く、付近の道路は混雑が予想されます。徒歩または電車などを利用し、車による来場はご遠慮ください。
 社会教育課青少年婦人係 ☎66-7462番

森のホール21 公演案内

**3/20 ニューフィルハーモニー
 オーケストラ千葉演奏会**

ソリストの千葉馨さん

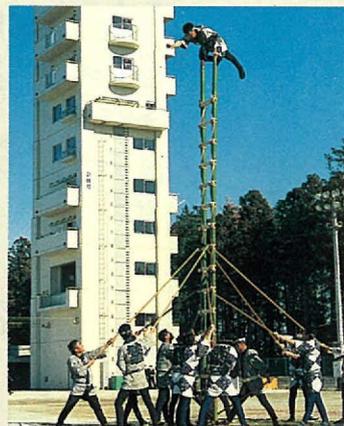


指揮 山岡重信 ソリスト 千葉馨(ホルン)
 曲目 スッペ 歌劇「軽騎兵」序曲/スメタナ 交響詩「我が祖国」より「モルダウ」/モーツァルト ホルン協奏曲第1番二長調・交響曲第41番八長調「ジュピター」
 開演 午後2時(大ホール) 入場料 2,000円

森のホール21催し物予定表 ●2/9までの全ての予定です。チケットが売り切れの場合はご容赦ください●

公演日	ホール	公演名称	開演時間	費用	チケット	問い合わせ
1/8(土)	大	レニングラード国立パレエ	14:30	有料		光臨社 ☎03-3943-7531
15(金)	大・小	成人式式典	①10:30 ②14:00	無料		社会教育課 ☎66-7462
16(日)	大	ぬいぐるみ人形ミュージカル「ピーターパン」	①11:00 ②14:00	有料	○	劇団ピッカリ座 ☎03-3563-4671
	小	アンダンテピアノ発表会	13:40	無料		池上 ☎87-8445
18(火)	大	ウイナー・ワルツ・アンサンブル	19:00	有料		民音松戸連絡所 ☎46-9888
19(水)	小	桂枝雀独演会	18:30	有料		東京市協 ☎63-4374
22(土)	小	積水ハウスホームコンサート	15:00	無料		積水ハウス千葉西支店 ☎67-0112
23(日)	小	ぬいぐるみ人形劇「ジャックと豆の木」	①10:30 ②13:30	有料		東京児童劇場 ☎03-3980-8161
26(水)	大	石川さゆり公演	①14:00 ②18:30	有料		ベルワールドミュージック ☎03-3222-7801
27(木)	大	由紀さおり・安田祥子童謡コンサート	18:30	有料		労音東葛センター ☎65-9911
29(土)	大	観世流能公演	14:00	有料	○	文化振興財団 ☎84-5050
	小	山下敬二郎オンステージ	13:30	無料		新松戸中央商店会 五十嵐 ☎42-0294
30(日)	小	松戸市カラオケ歌謡協会発表会	9:30	無料		青木 ☎68-8640
2/3(水)	大	生涯学習フェスティバル	13:30	無料		教育研究所 ☎66-7461
4(金)	小	津田真理ピアノリサイタル	19:00	有料	○	文化振興財団 ☎84-5050
5(土)	大	FMシンフォニーコンサート	16:00	受け付け終了		NHK千葉放送局(盛務券) ☎043-227-7311
	小	演劇「車のいろは空のいろは」	15:00	有料		松戸子ども劇場 ☎84-0504
6(日)	大	演劇「早春スケッチブック」	15:00	有料		松戸演劇観賞会 ☎69-5359
	小	詩吟発表会(日本国誠流国神会)	10:00	無料		鈴木 ☎61-1018
9(火)	大	高橋竹山「津軽のひびき」	18:30	有料		労音東葛センター ☎65-9911

※チケット欄○印の催し物は、入場券を森のホール21(☎84-5050番)で取り扱っています(月曜日は休館)。



はしご乗り

消防出初式会場案内



新春恒例の「消防出初式」を、1月7日(金)午前10時から(演技は11時から)消防訓練センターで行います。
 今年は、「まつど消防四十周年」を記念し、イキなはっぴ姿のはしご乗りを皮切りに消防音楽隊のフールドドリル、企業消防隊による屋内消火栓操法、消防局・消防団合同

1月7日(金)
松戸市消防出初式
 消防訓練センターで
実施します

消防演習を繰り広げます(雨天の場合、式典のみを消防局講堂で行います)。市民の皆さんのご来場をお待ちしています。
 ※当日は、会場付近の住民の皆さんにご迷惑をお掛けしますが、ご理解ください。よろしくお願いいたします。
 消防局総務課 ☎63-1111 内線312番